

## 庄内町家根合で稲刈り体験

### 621回 ～成長した稲を刈ってみよう～

10月4日(金)に、庄内町家根合の田んぼで庄内町余目第1小学校4年生を対象に稲刈り体験が行われました。

今回稲刈りをするところは、同じく余目第1小学校4年生が田植えした田んぼで、成長した稲にびっくりした様子でした。

(田植え体験については、607回で紹介しています。)



地域の方のお手本



鎌は気を付けて使おう



稲を束ねるのが難しいようです



杭かけまで体験しました

家根合での環境保全活動や農業体験は、子供たちが「地域の自然を守りたい」という思いから始まりました。

来週は、魚の学習会も開催される予定です。

農村計画課・整備課は引き続き地域の活動を応援していきます。

## 庄内町家根合で魚の学習会

### 622回 ～どんな魚がいるかな～

10月9日(水)に、庄内町家根合の家根合揚水機場で庄内町余目第1小学校4年生を対象に魚の学習会が行われました。

毎年、最上川土地改良区の協力により、家根合揚水機場の調整池の水を落として、地域に棲む魚類の調査を行っています。



今年度、捕まえた魚類は12種類。捕まえた魚等は最上川土地改良区の方より解説をしてもらいました。

小学生からは、「魚を捕まえるのが楽しかった」や、「魚の種類を知ることができて良かった」などの感想がありました。



庄内町家根合地域での環境保全活動や農業体験は、子供たちが「地域の自然を守りたい」という思いから始まりました。

農村計画課・整備課は引き続き地域の活動を応援していきます。

## 第25回全国棚田サミット(山口県)

### 623回 ～来年度は山形県の大蔵村で開催です～

10月13日(日)～14日(月)に、第25回全国棚田サミットが山口県長門市で開催されました。今回の全国棚田サミットは、多くの方が「棚田」の有する多面的機能への関心を高め、一次産業に対する意識の向上を図るとともに、棚田の魅力を再発見し、美しいふるさとの風景を次世代に繋ぐ契機とするために開催されました。



初日の13日は、基調講演やテーマ別に分かれた分科会により、中山間地域の見つめ直しや課題の共有、活動団体の事例発表などが行われました。

若い女性にも農業に関わってほしいという思いから開催された農ガールコレクションは今年で7年目の開催となりました。



2日目の14日は、日本の棚田百選になっている東後畑の棚田や元乃隅神社など、山口県の魅力あふれる農山村風景等を見学しました。



来年度は、山形県大蔵村で第26回全国棚田サミットが開催される予定です。

日本の棚田百選になっている四ヶ村の棚田をはじめ、山形県にも魅力あふれる農山村風景、食べ物がたくさんあります。ぜひ多くの方にご参加いただきたいと思います。

## 大鳥池の冬支度

### 624回 ～最後の頼み水「大鳥池」～

10月16日(水)に、鶴岡市旧朝日村にある大鳥池の今年度の最終点検、冬支度をしました。

大鳥池は、怪魚「タキタロウ」伝説で有名ですが、実は農業用水を貯水する「ため池」です。



今回は、降雪前の施設の点検、登山道にもなっている堰堤部の手すりの撤去と格納庫の雪囲いを行いました。大鳥池周辺は冬になると3メートルを超える積雪があり、11月には雪が降り始めるため、この時期に冬支度をします。



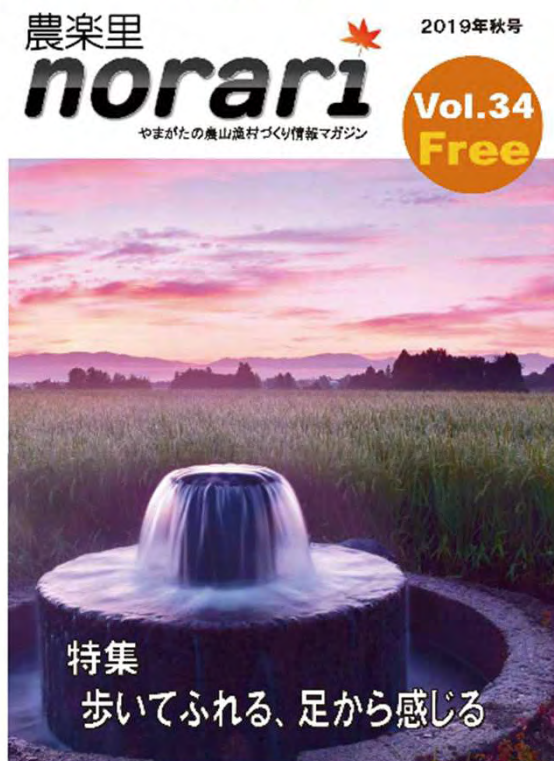
大鳥池へ行くには、泡滝ダムの登山口から徒歩で約3時間かかります。 大鳥池の冬支度©

ため池の施設管理のため、庄内赤川土地改良区と因幡堰土地改良区では、7月から9月の定期巡回のほか、降雪前の10月と雪解け後の6月に施設を点検しています。

大鳥池は、赤川の水が不足した時の庄内南部を潤す「最後の頼み水」として多くの人たちの努力で守られています。

625回 ～2019秋号 配信しています～

元気な農山漁村をつかっていきたい。農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい。農楽里(norari)は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する職員手作りの情報誌です。



【最新号】vol.34 2019秋号は、山形県農林水産部農村計画課のHPで配信されており、ご覧になることができます。

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里(norari)」

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari.html>

今回の特集は、『歩いてふれる、足から感じる』

農業農村整備関連施設や歴史的土壌改良施設などの紹介をする水土里ウォーク特集です。

庄内からは、2018年に山形県初の世界かんがい施設遺産に登録された庄内町の「北楯大堰」の紹介をしています。

ほかには、秋が旬の酒田市の刈屋梨の紹介をしています。

詳しくは、農楽里をご覧ください。

## 越沢新そばまつり

### 626回 ～そばが美味しい季節になりました～

11月2日(土)、3日(日)の両日に、越沢自治会が運営する「まやのやかた」において、『越沢新そばまつり』が開催されました。

9:00の開店前からとてもにぎわっており、10:00過ぎには約200人を越える人がそばを食べにきていました。



地元でとれた野菜の直売や、抽選で当たった人の大根引き抜き体験。薬味に使うクルミの調理体験や、お米のつかみ取りなどイベントが盛りだくさんでした。



お米のつかみどりは大人気でした



かぶや大根などが販売されたいました



くるみを割り、中身をすりつぶしました



とてもおいしかったです。

この越沢地域の棚田は、「やまがたの棚田20選」に選定されており、新そばまつりが開催された「まやのやかた」で配布しているため、そばを食べに来た際は、ぜひ棚田カードも手に取ってみてください。

<https://www.pref.yamagata.jp/sangyo/nogyo/nosangyoson/6140017yamagatanotanada20sen.html>

## いなば収穫感謝祭

### 627回 ～そば打ち体験をしました～

11月3日(日)に、東栄地区地域活動センターにおいて、水土里ネットいなば主催の田んぼの学校『収穫感謝祭』が行われました。

田植え体験から始まった今年の「田んぼの学校」は、本日の収穫感謝祭で今年度最後となります。

まずは、いなば田んぼの学校に参加し、農業体験や環境活動に積極的に取り組んだ方に、いなば子供未来クリエイターの資格認定の授与が行われました。今回新たに認定されたのは8人でした。



続いて2班に分かれ、「そば打ち体験」とネイチャーゲーム「動物交差点」が行われました。ネイチャーゲーム動物交差点では、知らない人同士でもコミュニケーションが取れるよう、工夫されたゲームで、初めて話す人たちとも仲良く、遊ぶことができました。



そば打ちでは、富樫理事長が講師となり教えていただきながらそば打ちを体験しました。



最後は、打ちたて、茹でたてのそばを、クイズ大会をしながら食べました。



また来年度、いなば田んぼの学校でお会いしましょう。

## 鶴岡市由良 おもてなし研修

### 628回 ～地域でおもてなす～

11月6日(水)に、鶴岡市由良でおもてなし研修会が開催されました。

講師は、鶴岡市銀座通りに店を構える今年で創業141年を迎える三井商店(ケトルワン)の三井 雅子 氏。

鶴岡市由良は、地域の課題解決や地域の魅力を活かすため、活動組織と地域住民が一緒になり地域で元気に暮らす為の話合いを始めた地域です。

この話し合いを機に、観光資源や水産資源など由良の魅力発信に加え、遊休施設を「海テラスゆら磯の風」というカフェにリニューアルし、現在はお客様を迎える体制づくりに力を入れています。

今回のおもてなし研修会は、海テラスゆら磯の風の店員に加え地域の方々も集まり、接客や商品展示の工夫などを学びました。



丁寧に教えていただきました。三井 雅子 氏

地域の方々は、「お客様に声をかけるタイミングは？」や「庄内弁と標準語の使い分けは？」など熱心に話を聞いていました。



25名程が集まりました

今回開催した研修会も、地域を良くしたいという地域の想いから開催されました。

庄内総合支庁農村計画課は、地域の元気づくりを応援します。



## 629回 ～大蔵村の四ヶ村の棚田～



11月14日(木)に、大蔵村にてやまがたの棚田サミットが開催されました。  
このサミットは、来年度、第26回全国棚田サミットが大蔵村にて開催されることを受け、  
機運の醸成に繋げたいという思いから開催されました。

午前中の第1部では、大蔵村の「四ヶ村の棚田」を見学しました。  
豊牧、沼の台、滝の沢、平林の4集落の総称「四ヶ村の棚田」は、1,900枚と県内屈指  
で、その景色は絶景でした。



午後の第2部では、8月に施行された棚田地域振興法の説明と、「現場の声をヒントに  
棚田振興を考える」をテーマとしたパネルディスカッションを行いました。  
パネルディスカッションでは、県内での中山間地域の取り組み事例を発表しながら、課  
題等について話し合いました。  
現場からの声としては、「後継者不足を解消する為には、今活動している自分たちの  
活動を若い人に見てもらうことが大事」や「儲かる仕事(農業)でなければいけない。ま  
た、社会保障の充実が必要」などの意見がありました。



### 630回 ～水利施設の点検方法～



11月26日(火)に、毎年大町溝土地改良区が主催して行っている導水幹線トンネルの現地調査に同行しました。

最上郡戸沢村草薙(くさなぎ)にある草薙頭首工から上郷揚水機場まで繋がるトンネル、約5.2キロ区間の劣化状況等の調査を行いました。

トンネル内部は真っ暗なため、ライトを点けながらの点検でした。



トンネル内部の水位は下流に向かうにつれ少しずつ上昇し、トンネル出口付近では腰の高さまで水位がありました。



完成から50年以上経過したトンネルは、ところどころで空洞や亀裂も見られましたが、こうした点検により適正に維持管理されています。

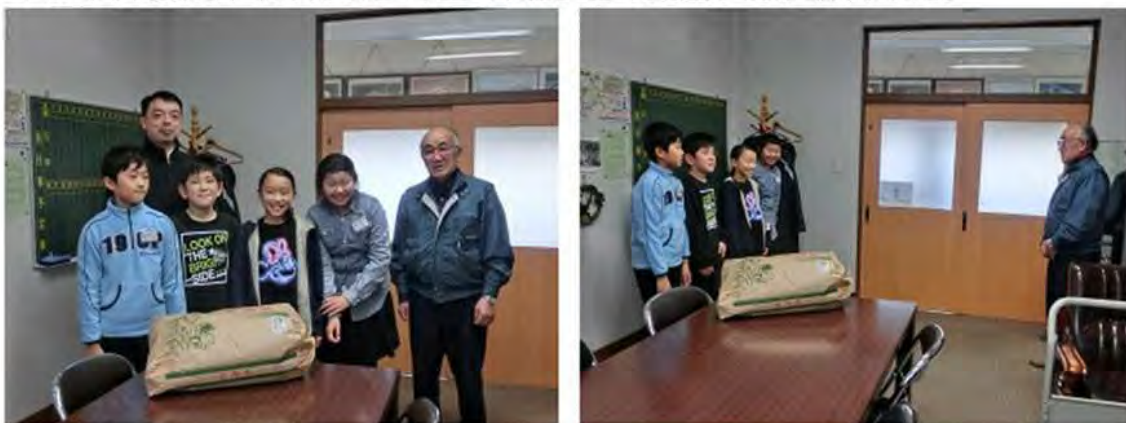
631回 ～家根合地区地域活動支援～



12月19日(木)に、家根合地域活動支援として実施している農業体験で収穫しためだかの里米を、今年度の活動の成果として学校給食で提供するための贈呈式が庄内町立余目第一小学校で行われました。

本日贈呈されたお米は、体験水田において自然乾燥で収穫しためだかの里米(はえぬき30kg)で、精米したばかりのものでした。

NPO家根合生態系保全活動センター 佐藤 代表からは、「みなさんと田植え、稲刈りをした田んぼでできためだか米です。今年も、給食でおいしくいただいでください。」とのコメントがあり、農業体験を行った4年生の代表4名の児童が受け取りました。



贈呈されためだかの里米は、1月16日(木)の給食でふるまわれ、関係者と4年生児童との会食が計画されています。

NN.REIKOで紹介した今年度の庄内町家根合地域の活動についてはこちら↓

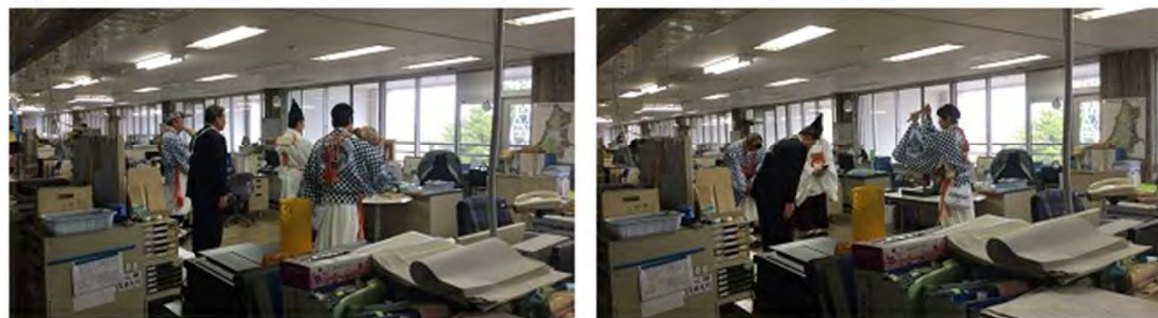
[https://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337046/reiko\\_backnumber2.html](https://www.pref.yamagata.jp/ou/sogoshicho/shonai/337046/reiko_backnumber2.html)

632回 ～本年もよろしくお祈りします～



新年明けましておめでとうございます。

農村計画課では、1月9日に出羽三山神社三伏さまより、新年のご祈禱をいただきました。



さて、今年は東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。アスリートから刺激をもらい、躍動的な年になるのではないかと期待しています。

そして、今年は始まりの意味をもつ「子」の年です。

NNREIKOも心機一転、新たな気持ちで庄内の農業農村の「旬」をお届けできるよう頑張ります。

今年1年どうぞよろしくお祈りします。

633回 ～おいしいお米～



1月16日(木)に、庄内町立余目第一小学校で、「めだか米の試食会」が行われました。試食をしたお米は、庄内町家根合地区の田んぼで、4年生児童が田植えから稲刈りまでを自分たちで行ったものです。



児童からは、お米がとてもおいしかった。田植えからお米になるまで育てるのが楽しかった。などの感想がありました。

この試食会には、田植え、稲刈りを児童に教えた家根合地区の方々も来ており、農作業体験を通して幅広い交流が生まれるこの体験学習は大切だと改めて感じました。

634回 ～用水を守るために～



1月17日(金)に、知識習得と技術力向上を図るため、庄内総合支庁農村整備課発注の現地研修会が開催されました。

この研修会では、基幹水利施設ストックマネジメント事業田沢地区で活用されているSPR工法の説明と、農業用水を活用した小水力発電施設が紹介されました。

工事で活用されているSPR工法は、既設の管水路を壊すことなく、その中に更生管を作成するというもので、なかなか見ることでできない工法を現地で学ぶ事ができました。



SPR工法の説明



小水力発電施設の説明

広大な庄内平野では、各地でこうした技術が活用され農業が守られています。

### 635回 ～ワークショップとは？～



1月28日(火)、29日(水)の2日間で、ワークショップシナリオ作成研修を開催しました。この研修会は、地域の合意形成を促し、組織の立ち上げや実践活動に繋がる、より効果的なワークショップのプログラム(シナリオ)作成技術を習得するために開催され、今年で11年目となりました。

講師は、(有)ナウスジーアシステム研究所の小野 邦雄 氏。

本研修会には、庄内各地から計11名の参加がありました。2班に分かれグループ討議を行いながら、ワークショップのシナリオ作成技術について学びました。



中山間地域をはじめとする農山漁村における地域づくりでは、住民のやる気の醸成と合意形成を図る手段として、ワークショップの開催が効果的な手法のひとつになっています。実際の現場では、地域のおかれている条件や抱える課題にそれぞれ違いがあり、適切なプログラムでワークショップを開催することが重要になります。

農村計画課は、元気に頑張る地域を応援しています。

636回 ～2020冬号 配信しています～



元気な農山漁村をつくっていききたい。農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい。

農楽里(norari)は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する職員手作りの情報誌です。



【最新号】vol.35 2020冬号は、山形県農林水産部農村計画課のHPで配信されており、ご覧になることができます。

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン「農楽里(norari)」

<http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/140017/norari.html>

今回の特集は、『学び、活かす』

山形県内の学生が、学んだ知識を生かし、地域・農業と関わっている様子を紹介する特集です。

庄内からは、鶴岡工業高等専門学校が地域と連携し、鳥獣被害の解消に向けて取り組んでいる活動について紹介しています。

ほかには、課題解決を目指す地域を対象に、地域づくりに関した様々なお手伝いをしていいる山形県の取り組みを掲載していますのでぜひご覧ください。

詳しくは、農楽里をご覧ください。



637回 ～郷土料理の伝承～



2月8日(土)に三瀬コミュニティセンターで、笹まき・ちまき作り体験会及び郷土料理試食会が開催されました。

このイベントは、鶴岡市三瀬地域に住む鈴木 正 指導員が、地元産物で作る伝統食を伝承させる為に開催しており、今年で7年目になりました。

鈴木 正 指導員は、山形県から委嘱されている農村環境保全指導員の内の一人であり、土地改良施設や農地等の保全、農村地域の活性化を推進することを目的として活動しております。



鈴木 正 指導員

三瀬地区の方々、温海地域の方など約20名が集まり、笹まき・ちまきづくり体験を行いました。

併せて今回は、郷土料理の伝承を進めている三瀬地区食生活改善推進協議会が作る郷土料理の試食会も行われました。



笹を巻くのに苦労しました...

参加した人からは、「笹まきを作るのが難しい」、「郷土料理がおいしい。作り方は？」などの意見が聞かれました。

こうした活動を通して、地域の伝統が伝承されていくことを願っています。

引き続き、地域を元気にする活動を応援していきます。

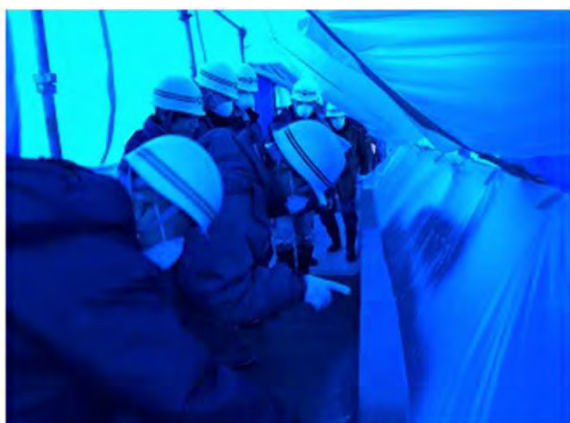
### 638回 ～現場に適した工事施工方法を学ぶ～



2月20日(木)に庄内総合支庁農村計画課・整備課の職員を対象に、農業農村整備事業現場研修会を開催しました。  
農村整備課の事業現場を対象に、それぞれの現場条件に適した工事施工方法の違い・工夫を中心に研修しました。



開削ができない現場や用水路の底板を滑りにくくする事が求められる現場。景観配慮が求められる現場など、それぞれ地域の方々の想いを反映させ、発注者・受注者共に協力しながら工事を進めていました。



639回 ～基礎形式の違いについて学ぶ～



2月21日(金)に開催された、国営「最上川下流左岸地区」現場研修会に参加しました。

この研修会では、最上川下流左岸農業水利事業所で発注している排水機場2箇所の工事現場を見学し、各排水機場で採用された軟弱地盤に対する基礎の工法を中心に研修しました。



640回 ~だんだんと春らしくなってきました~



本日は、雪解けが進むやまがたの棚田20選『大網の棚田』に行ってきました。



ここは、周りが地すべり地帯で、特有の緩斜面に沿って作られた棚田です。古来、庄内と内陸を結ぶ「六十里越街道」沿いであり、湯殿山信仰で栄えました。街道の要所である十王峠から一望できる棚田は140枚を超えています。



例年雪が多い大網地域の棚田ですが、今年はずでに土が見え始め、一足早い春の景色となっていました。

### 641回 ～地すべり地域の災害に備えて～



3月11日(水)に、今年度2回目となる融雪状況調査を行いました。  
この調査は、県が管理する農地地すべり防止区域の融雪状況を調べ、後々の融雪災害や地すべりが発生した時の資料として役立てるものです。  
県が管理する農地地すべり地区6地区を対象に、毎年この時期に実施しています。

今回は、6地区の内先週の調査で積雪が確認された2地区について実施しました。



暖冬の影響もあり、昨年度に比べると雪が少ないですが、引き続き、災害に備え万全の体制で管理に努めることが早期発見に繋がります。  
今後も、地すべり巡視員の方々と共に、日常点検に努めていきます。

642回 ～農業農村整備技術を繋ぐ～



3月17日(火)に、庄内総合支庁農村計画課・整備課の職員を対象としたNN職場研修会を開催しました。

研修会では、今年度で退職される職員からの農業農村整備技術の伝承をはじめ、宮城県で災害復旧支援を行った職員の報告や、日頃の業務の工夫やポイントなどを発表・報告していただく盛りだくさんの内容で行いました。



農業農村整備技術の伝承



宮城県災害復旧支援の報告



20名弱の職員が参加しました

先輩職員の技術を繋いでいき、農業農村整備事業に励んでいきたいと思ひます。